



守山市議会 環境対策特別委員会

2011, 5, 19 愛知県新城市

5, 20 三重県桑名市

行政視察レポート その2

愛知県新城市の取り組み

5月19日と20日は、守山市議会環境対策特別委員会で、愛知県新城市と三重県桑名市を訪れ、市民と共に地球温暖化対策やごみ減量化を進める先進地研修を行いました。いずれの自治体も、地球温暖化対策に対する市民の意欲と行政の協働により、積極的に取り組まれていました。今後、すぐに守山市でも取り組めるものもあり、有意義な研修となりました。小牧一美議員の研修レポートその2です。

- ・ 温暖化対策「見える化・体験化」
- ・ 緑のカーテンコンテスト開催で行動のきっかけづくり
- ・ DVDや本の貸出し エコライブラリー
- ・ 「省エネナビ」「車の燃費マネージャー」を使ったエネルギー消費量の見える化
- ・ 年2〜3回市民環境講座と環境教室に参加者多数
- ・ 市民との協働・連携
- ・ フェアトレード講演会年4回
- ・ 難民衣料・キャップ回収
- ・ イベントは市民団体主導。企画立案・資金調達まで。
- ・ チャレンジ25の取り組み
- ・ 環境省作成の宣誓書 登録者1500人(講演会やイベントで呼びかける)エコに関する取り組みをeメールで送信。
- ・ 市内では週1回環境情報を発信。数年間継続中。リユースシステム(不用品を市内ラウンに掲示し、有効利用)

地球温暖化対策の必要性は誰もが認めることです。しかし、その実感があかぬのが課題。新城市は、市民の取り組みと行政の支援が上手くリンクし、相乗効果を生んでいるようです。楽しんで取り組める「仕掛け人」になることが行政に求められていると感じました。

市民のくらしに根づいた リサイクル

三重県桑名市 クルクル工房



三重県桑名市では、エコライフ家庭運動を実施しています。環境に優しい行動を示した「エコライフ行動リスト」を見ながら生活をチェックするというもの。市民の環境意識が高まる効果はあるものの、参加者の伸び悩みがあるとのことでした。感心したのは、桑名市リサイクル推進施設「クルクル工房」での「生ゴミたい肥化事業」と「クルクルショップ」の取り組み。桑名市がNPOに委託し事業を行っています。市民に歓迎される事業が展開されており、また、作業されている職員さんの生き生きとした様子がとても印象的でした。

平日でも900人が利用。この日も、市民が次々と訪れていました。



たい肥舎

ここは、生ゴミをたい肥にして、市民に無料で提供している施設です。注目は、各家庭で生ゴミを入れる容器は「衣装ケース」。職員さんが研究して作成した物で、蓋部分を透明の塩ビ版に。もみ殻を使った発行促進剤(床材)の入ったケースに生ゴミを入れて家庭で「一次処理」。いっぱいになったら、たい肥舎に持

クルクルショップ

ち込んで6ヶ月かけて良質なたい肥になります。「生ゴミ」の腐敗臭は「？」と気になるところですが、適切な発酵なので臭くはありません。昔懐かしい畑のにおい。この処理で、生ゴミ量が10分の1に。減量化に大きく貢献しています。



2時間ほどの研修の間、駐車場にはひっきりなしに、雑誌、衣類、空き缶などの資源物を抱えた市民が訪れます。自治会毎の回収は月に1回なので、ここに直接持ってくる人が多いとのこと。来られた方は「曜日や時間に関係なく持ち込めるので、この施設はとても利用しやすい」と、語られています。1日平均900人、休日は2000人が利用するそうです。種類に分けて大きな袋に。作業員さんはいっぱいになった袋を閉じて搬出の用意。この袋は業者が直接引き取りに来ることでした。

また、室内では各家庭で不用になっても、まだ使えるものなどを、修繕や加工して、販売しています。衣類、食器、雑貨、おもちゃ、本などが並べられ、安価で販売していました。女性職員がミシン作業をしておられるコーナーでは、ちりめんの風呂敷をおしゃれなポーチに、浴衣を履き心地の良さそうな布ぞうりにと、全く新しい品物に変身させておられます。定期的に市民向けの手作り講座を企画し、申し込みを受け付けるとあつと言間に定員いっぱいになるそうです。毎月1回おもちの病院や傘直しなども企画。職員さんが楽しそうに仕事をおられました。